



著者 フェルディナント・ハーン

1926年生まれ。ケーゼマンやボルンカムに師事し、1961年に博士号を取得、63年に本書によってハイデルベルク大学より教授資格を取得。その後キール大学、マインツ大学を経て、76年から94年までミュンヘン大学教授を務めた。多数の著書があるが、邦訳は『新約聖書神学Ⅰ、Ⅱ』（日本基督教団出版局）、『新約聖書の礼拝』（新教出版社）がある。

訳者 勝田英嗣（しょうだ・えいじ）

1949年生まれ。1971年立教大学経済学部卒業。1985年東京神学大学博士課程後期単位取得退学。浜松教会牧師。

新約聖書の伝道理解

フェルディナント・ハーン著／勝田英嗣訳

1月25日刊行

この分野における古典的な文献の待望の邦訳。

初代教会における伝道観の多様性を明らかにしつつ、そこを貫く二つの根本問題、すなわちユダヤ人／異邦人の区別と福音の普遍性の関係如何、および伝道と教会との関係如何を浮き彫りにし、これに対する初代教会の様々な解釈と反応を検討する。現代のキリスト教会が直面する伝道問題にとっても、貴重な示唆を与えるであろう。

◆A5判・240頁・定価3990円

▼同じ著者の既刊書

新約聖書の礼拝

初期教会におけるその形を尋ねて

越川弘英訳

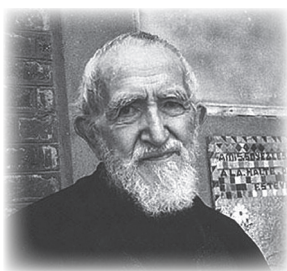
初期教会の多様な礼拝から標準形が次第に形づくられていく過程をつぶさに明らかにした力作。

◆四六判・定価2100円

【目次から】

序 論

- I 原始キリスト教伝道の旧約聖書及びユダヤ教的諸前提
- II 異邦人に対するイエスの態度
- III 最初期のキリスト教における伝道
- IV パウロの伝道理解
- V 共観福音書と使徒言行録における伝道
- VI その他のパウロ後伝承とヨハネ文書における伝道



アベ・ピエール (Abbé Pierre) 1912年リヨン生まれ。第二次大戦中はユダヤ人を助けレジスタンスと共に闘う。戦後、慈善協会「エマウス」を設立。2007年逝去、国葬に付された。

神に異をとこなえる者

アベ・ピエール 著 / 寺家村博、寺家村和子 訳

◆B6変形・120頁・定価1260円

フランスでもっとも愛される宗教者にして活動家アベ・ピエールが最晩年に、親しい友との対話のなかで自らの信仰を率直に語った貴重なドキュメント。

ほぼ一世紀にわたる大胆な活動のなかで培われた深い霊性と洞察力から発せられる、生きる目的とはなにかという根元的な問い、人間の欲望との葛藤、キリスト教の教義、またカトリックの司祭制、法王の姿勢などに対する歯に衣着せぬ問い。神と人への愛ゆえに「神に異をとこなえる者」。

「近年、アベ・ピエールはフランスのテレビ視聴者の投票でドゴール將軍、キュリー夫人について歴史上もっとも功績のあるフランス人のなかに名をつらねました。

彼がエマウスの創始者であることはすでに広く知られていますが、そのことよりも何よりもまず、彼は「神に異をとこなえる者」であり、信仰者でありながら人間の惨めさや苦しみを甘んじて受け入れることを拒みませんでした。」

(本書「まえがき」から)

1月24日刊行

神学入門 プロテスタント神学の転換点

J・L・フロマートカ 著

近刊予定

平野清美 訳 / 佐藤 優 監訳・解説

◆四六判変形・200頁・定価1890円



第二次大戦の傷跡がいまだ色濃く残る48年に、亡命先から帰国し、プラハの神学校で初学者を対象に語った講義。神学の学び方から弁証法神学に対する評価に至るまで、著者の神学観が率直に吐露された興味尽きない内容。フロマートカに私淑する佐藤優氏による力のこもった解説を巻末に収める。

宮平 望著

コリント人への手紙

私訳と解説

好評のシリーズ第7作。コリント前後書を含む。聖書学の成果としっかり対話しつつ、聖書全体の統一性を重視し、一節ごとに丁寧な釈義と黙想を重ね、豊かなメッセージを汲み取る。信徒の聖書の学びに最適の書となるだろう。

◆A5判・480頁・定価2625円

ジョナサン・マゴネット著／小林洋一編

ラビの聖書解釈

ユダヤ教とキリスト教の対話

ユダヤ教改革派ラビを代表する著者（ロンドンのレオ・ベック大学教授）が西南学院に長期滞在した折おこなった講演・シンポ等の貴重な記録。十戒、イサク奉獻、ルツ記をめぐる現代のラビの解釈は、キリスト者にとっても尽きせぬ刺激である。

◆四六判・200頁・定価1785円

ジャン・バニエ他著／浅野幸治編訳

バニエと語るラルシュ黙想会

（仮題）

09年3月、日本人一行19名がフランス・トロローイーで、ラルシュ共同体の創設者ジャン・バニエの指導を受けて黙想会を行った。その際の講話を中心としたバニエのメッセージを収録。人が共に生きることの意味を静かに深く考える。

◆四六変型・152頁・予価1575円

● 12月に出た本

十戒

教会のための講解説教

ヴァルター・リユティ著／野崎卓道訳

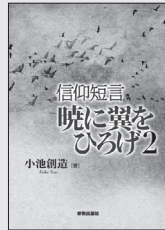


スイスの名説教者が、15回にわたる講解説教を通して、現代人のための慰めと励ましに満ちた真の「聖書的な倫理」を、力強く説き明かす。

◆308頁・定価2100円

信仰短言 暁に翼をひろげ2

小池創造著



南浦和教会の週報に連載され、全国にたくさんの愛読者をもつた名エッセイ、待望の第2集。05年1月から今年8月まで300余編を収録する。

◆312頁・定価2000円

■新規オンデマンド化

神社問題とキリスト教

戸村政博編

◆418頁・定価6300円

K・バルト 和解論 I / 4

井上良雄訳

◆255頁・定価6300円

編集部から

●2011年の小社の新刊は左記の35点で、10年と比べて4点減少しました。専門書がなかなか売れない時代、小社も苦戦していますが、『塚本虎二訳新約聖書』が発売後1月を待たずに重版となりました。12年はバルト・セレクション5「教会と国家Ⅱ」、故土肥昭男先生の天皇制論を集成する大著、雨宮栄一先生の井上良雄評伝、カルヴァン新約註解「共観福音書・下」など、また絵本はペール・カストール叢書から古典的名作を準備しています。どうぞご期待ください。

*ただ進み進みて(森岡巖)、ヨハネ福音書のイエス・キリスト下(秋田稔)、使徒言行録(宮平望)、バルト・セレクション4(カール・バルト)、人が共に生きる条件(並木浩二)、新約全書(ネイサン・ブラウン訳)、ドイツ現代史とキリスト教(河島幸夫)、評伝高倉徳太郎下(雨宮栄一)、詩篇の思想と信仰Ⅲ(月本昭男)、イエスとその目撃者たち(ボウカム)、カッパドキア教父(メレディス)、告白教会と世界教会(ボンヘッファー)、マグダラのマリヤ、第一の使徒(プロック)、石原吉郎 詩文学の核心(柴崎聰)、日本キリスト教史における賀川豊彦(賀川豊彦記念松沢資料館編)、四つの愛(新訳)(C・S・ルイス)、思想としての編集者(深井智朗)、われは教会を信ず(佐

藤司郎)、時代のように訪れる朝を待つ(「福音と世界」編集部編)、「十字架の神学」をめぐる(青野太潮)、新約本文学演習 マルコ・マタイ(蛭沼寿雄)、新約本文学演習 ルカイ/ギリシア語新約語法(蛭沼寿雄)、新約本文学史(蛭沼寿雄)、塚本虎二訳新約聖書(塚本虎二訳新約聖書刊行会編)、ローマ人への手紙(宮平望)、しあわせなろば(藤本四郎)、日本プロテスタント海外宣教史(中村敏)、原発とキリスト教(新教出版社編集部編)、信仰と経験(廣石望)、キリスト教の歴史増補新版(斎藤正彦)、ゴルゴタへの道(菅川進二)、幸いなるかな(原口尚彰)、旧約聖書と新約聖書(上村静)、十戒(リユテイ)、信仰短言 暁に翼をひろげ2(小池創造)。

オンデマンド復刊は以下の4点でした。和解論Ⅰ/4、同Ⅱ/3(カール・バルト)、「十字架の神学」の成立(青野太潮)、神社問題とキリスト教(戸村政博)。

倉庫業務アルバイト募集

仕事・書籍・雑誌の集荷・納品等
勤務…週3日以上可能な方。午前10時
より午後5時まで(応相談)
待遇…時給千円から・交通費支給

*小社宛に履歴書をお送りください。

新教出版社

福音と世界

2012年

2

A5判・80頁・定価600円・送料68円
年間予約購読料(送料共) 8016円

特集・芸術・社会批評・霊性

インタビュー 市民の魂について 平田オリザ

光太郎・光晴・りん …… 今高義也

「現実の底から」現在を問う五〇年代の芸術 …… 桂川 潤

次世代表現者たちの小魚群をめざして イクトウス・プロジェクト …… 倉井香茅哉

▼関東大震災とキリスト教その4(最終回)

…鈴木範久、五十嵐喜和、山口陽一、戒能信生

【不定期連載】

◆私とキリスト教1 …… 善尚中×小中陽太郎

【連載】

◆リレメッセージ「三・一以後」2 …… 内藤新吾

◆私のごすべるくろにくる2 …… 沢 知恵

◆ポストコロニアル視点から読むマタイ福音書 4 …… ワーレン・カーター/山口里子訳

◆ブルトマン・マルクス・バツハから学んだこと5 …… 川端純四郎

◆神学の履歴書 41 …… 佐藤 優

◆新約釈義 使徒行伝 79 …… 荒井 献